

平成23年度 山形大学公開講座〔人文学部〕

ポスト震災を考える

これからの社会のあり方

9
27 火
もし行政がマヒしたら
— 震災後の社会を考える —
人文学部 教授 高橋 和

10
4 火
地域福祉と地域経済
人文学部 准教授 下平裕之

10
11 火
ペットボトル・リサイクルからみた循環型社会
人文学部 教授 國方敬司

10
18 火
なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか
人文学部 准教授 松本邦彦

10
25 火
＜パネルディスカッション＞
これからの社会のあり方
人文学部 教授 北川忠明
國方敬司・高橋 和・下平裕之・松本邦彦

日 時：平成23年9月27日(火)～10月25日(火)
午後6時30分～8時10分 [火曜日 計5回]

場 所：山形大学人文学部1階 104教室

対 象：一般市民・大学生・高校生 定員30名

受 講 料：一般 2,000円

大学生・高校生は無料

募集期間：平成23年9月1日(木)～9月21日(水)

■お問い合わせ先

山形大学人文学部事務室

電話：023-628-4203

E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ポスト震災を考える

これからの社会のあり方

講座の概要

東日本大震災がもたらした甚大な被害は、誰もが体験したことのないほど痛ましいものでした。被災地では今なお、震災の爪痕が深く残っています。そうした状況の中、社会のあらゆる分野で、日本社会の有り様を見直す動きが始まっています。これからの社会はどうあるべきか？

私たちはこの問題を避けて通ることができません。しかし、問題の範囲は広く、複雑であり、複合的な視点から考えることが必要です。そこで本講座では、日々の生活に深く関わる四つの視点 ―地域コミュニティ、福祉、環境、エネルギー― を中心に、いま何が問題になっているのか解説します。その上で、望ましい社会のあり方とはどのようなものか、提言を行います。一市民としての目線から、身近な例を交え、わかりやすくお伝えします。

第1回目

もし行政がマヒしたら ― 震災後の社会を考える ―

人文学部 教授 高橋 和



9
27
火

3月11日の東北・北関東を襲った地震と津波はこの地域に未曾有の被害をもたらしました。その直後、人々はどのように行動したのでしょうか？行政機関がマヒしている状況のなかで、どのようにして社会の秩序を維持することができたのでしょうか。震災後の状況から、何が必要であったのか、何が不足していたのか、そして今後の社会のあり方、とりわけ自立的な社会をどのように創っていくのかについて考えます。

〈担当者の専門〉国際関係論、EUの国境を越える自治体協力に関する研究

第2回目

地域福祉と地域経済

人文学部 准教授 下平 裕之



10
4
火

東北地方は全国に比べ人口減少率が大きく高齢化率も増加傾向にあり、これに伴い雇用状況の悪化や地域コミュニティの崩壊が進んでいます。今回の東日本大震災は、このような東北地方の厳しい現状がもたらす社会的衰退をさらに加速する危険性があります。このような状況下で地域においてこれからも安心して生活していくために、どのように福祉の充実を図り、経済を活性化していくかという問題を考えたいと思います。

〈担当者の専門〉経済学史・地域資源を活用した地域活性化に関する研究

第3回目

ペットボトル・リサイクルからみた循環型社会

人文学部 教授 國方 敬司



10
11
火

循環型社会の形成が必要であることには、誰も異議はないと思われます。しかし、循環型社会とはどのような社会であるのか、といった点にまで考えていくと、必ずしもその内実について十分理解が及んでいるとはいえないのが現状のようです。今回は、リサイクル容器とリターナブル容器との比較を通して、現在のリサイクル政策の問題点を明らかにし、これからの社会ではどのようなあり方が望ましいのか、また自分たちにできることは何なのかを提案します。

〈担当者の専門〉環境経済学とイギリス産業革命・農業革命史

第4回目

なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか

人文学部 准教授 松本 邦彦



10
18 火

戦後日本人は核エネルギーを希望の火としてきましたが、「3.11」はそこに大きな疑問符を付けることになりました。しかし日本人の「核」肯定論は非常に強固であり、「進歩と発展」に対して本来は懐疑的であるはずの「保守」の人々が推進派となってきたほどです。自分の隣にあるのは困るが、遠くにあるのはかまわないという意識だけではこの状況は説明できません。戦後日本のエネルギー政策を国内の思想状況に位置づけながら、「3.11」後を展望したいと思えます。

〈担当者の専門〉 日本外交と政治について

第5回目

＜パネルディスカッション＞
これからの社会のあり方

人文学部 教授 北川 忠明

國方敬司・高橋 和・下平裕之・松本邦彦



10
25 火

東日本大震災は、中央と地方の関係、エネルギー政策、経済・産業構造等をはじめ、第二次世界大戦後日本の政治・経済・社会の全体的なモデル・チェンジを迫る大きな節目となるものです。このパネルディスカッションでは、本公開講座の4人の講師をパネリストとして、自立・分散型の地域社会の創生という観点から提言を行い、参加者の皆さんとともに、ポスト震災社会の諸課題をめぐって議論します。

〈担当者の専門〉 政治思想、とくにフランス共和主義思想の研究

「い」から切り離してお出してください。

02	払 込 取 扱 票										通常払込料金 加入者負担										
口座記号番号														金額				千 百 十 万 千 百 十 円			
0 2 2 6 0 - 7 9 2 4 7 8														2 0 0 0							
加入者名 国立大学法人山形大学														料金				備考			
※「ポスト震災を考える ― これからの社会のあり方」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方は ご記入ください。() ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー棟のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)																					
おとこ (郵便番号 -)														日 附 印							
※ おなまえ																					
(電話番号 -)																					
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)																					
これより下部には何も記入しないでください。																					

切り取らないでください。

振替払込請求書兼受領証																	
口座番号														通常払込 料金加入 者 負担			
0 2 2 6 0 - 7 9 2 4 7 8																	
加入者名 国立大学法人山形大学																	
金額														千 百 十 万 千 百 十 円			
2 0 0 0																	
おなまえ ※														様			
ご依頼人																	
料金														日 附 印			
備考																	

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。



この講座はゆとり都カレッジに参加しています。

- 募 集 人 員** ◆ 一般市民・大学生・高校生 30名
- 募 集 期 間** ◆ 平成23年9月1日(木)～9月21日(水)
- 受 講 料** ◆ 2,000円(大学生・高校生は無料)
- お申し込み方法** ◆ 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- お問い合わせ先** ◆ 〒990-8560
山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務室
TEL: 023-628-4203
E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 会 場 案 内** ◆ 山形大学人文学部1階 104教室
大学正門を入って正面の建物です。
受付は人文学部正面玄関にて行います。
- そ の 他** ◆ **【公共交通機関ご利用のお願い】**
現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。